

閉校記念行事 ～ようこそ先輩～

実施期日 平成27年9月5日

平成27年9月6日 北鹿新聞掲載



高校時代の思い出を語る遠藤さん(右から2番目ら
(大館高)

来春、桂桜高へ

閉校行事始まる

「大館」は
思い出談話会

剣道部の歩み振り返る

28年4月に大館桂桜高校として新たなスタートを切る大館、大館桂、大館工業の3高校は、この秋、そろって閉校記念行事を計画している。5日はトップを切つて大館高校(今泉悟校長)で、輝かしい成績を残してきた剣道部の歩みを振り返る談話会が開かれた。指導者・教員の強い絆が披露され、生徒や卒業生、旧職員ら約150人が聴き入った。

大館の前進・大館南の剣道部は、全国高校剣道選手権大会女子団体3位に入るなど、全県・全国大会で活躍し、その伝統は大館にも引き継がれている。統合後、現・体育館は解体予定のため、「体育的」な教育活動を振り返り、桂桜高にいかしたい(今泉校長)と企画した。

思い出談話会「ようこそ先輩」剣道人生「守破離」をテーマに、大館南卒で、昭和54年に全日本女子剣道選手権大会を制した遠藤律子さん(旧姓小松、60)と秋田市、大館南・大館に計25年間教員として勤務した大高尚士さん(70)と大館市が語った。当時は道場がなく、「この体育館で3年間練習した」という遠藤さんは、「まわりの部に囲まれシャトルやボールが飛んでくるので、パッパッ

と対応した。動体視力が養われたかも」とユーモラスに練習風景を回顧。高校時代は「指導した大高先生をどう打とうか」と考え稽古に励んだが、全国3位が最高で、「その悔しい気持ちで、日本一に繋がった」という。大高さんは「律子さんの鍛錬のすごさを知り、指導法を必死に学んだ。出会わなければさはない」と教え子に感謝した。湯沢高卒で、大学時代に大館南高で稽古をつけた経験があり、昭和61年全国日本剣道選手権大会優勝者の岩堀透さん(62)と大阪府、岩堀さんを指導した元教員の吉田雅宏さん(70)と秋田市も登壇。秋田が生んだ男女の「日本一」がそろい、剣道に向かう姿勢を披露。北鹿の中高生も参加し、4人から指導を受けた。大館では8日にも、卒業生で国内外で活躍するマリンバ奏者・布谷史人さんを招いたシンポジウムを開く。このほか、大館桂は10月17日にパネルディスカッション「ありがとう」ホームカミングデー、大館工業は11月1日に、閉校式典と思い出を語る会を計画している。